

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	あり
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	4企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	かぶしきがいしゃ ようごうしゃ		
	制作団体名	株式会社 影向舎		
	代表者職・氏名	代表取締役 小池岳士	団体ウェブサイトURL	
			http://www.yougou.co.jp	
	制作団体所在地	〒 243-0005	最寄駅(バス停)	小田急線本厚木駅(市立病院前)
		神奈川県厚木市松枝1丁目4番7号		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	こうえきしゃだんほうじん ほうしょうかい		
	公演団体名	公益社団法人 宝生会		
	代表者職・氏名	会長 錦織淳	団体ウェブサイトURL	
			http://www.hosho.or.jp	
	公演団体所在地	〒 113-0033	最寄駅(バス停)	JR・東京メトロ水道橋駅
		東京都文京区本郷1-5-9		
	制作団体 設立年月	昭和60年3月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		㈱影向舎 小池岳士・小池将直 他	制作スタッフ:11名 舞台スタッフ:12名	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	中村真理子
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	小池弘美
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		m.nakamura@yougou.cojp		0462970255

制作団体沿革・
主な受賞歴

○株式会社 影向舎 《社是:「人と芸をつなぐ」 社訓:誠意・信念・正義》
学校公演において全国一位の公演数を有する製作者集団。昭和60年の創立以来、日々社是、社訓を見つめ直し“初めて鑑賞する人にどのように芸の魅力を伝えるか”このテーマを40年間に亘り追究、実施を繰り返し、今後も追い続ける。
創立当初は落語、狂言の公演活動から始まり、その後お客様のニーズに応えるべく日本の芸能である講談、能、邦楽、また演劇、京劇、オーケストラなどジャンルを増やしてきた。特に能楽公演においては、通常の学校公演に加え、過去には東京都主催「こども能チャレンジ」の制作業務の実績・経験を基に、趣向をこらした青少年向け能楽公演を実施。
どの芸能にしても単に出演者を右から左に動かすだけでなく、企画制作から公演が終了するまでのトータルプランニングを行う。それぞれの舞台を充実させるため、社内では営業部・制作部・デザイン部・舞台部を機能的に編成。各部がひとつひとつの公演を成功させるべく、万全の状態でお客さんをバックアップする体制を整えている。
現在では、年間公演数が600を超え、学校公演では業界随一の実績を更新し続けつつ、他に教育委員会、公文協、老人ホーム、TV、ラジオ、ホテル、国際交流基金や大使館主催などによる海外公演(平成27年6月・イタリアローマのパラディウム劇場に影向舎の能舞台を輸出し、舞台設営・監督業務を兼ねて、狂言公演を実施。令和6年7月にはパリ五輪に先立つ、手話狂言公演[ランス国立劇場・パリ日本文化会館]の舞台監督業務を行う)など多方面で公演活動を行っている。

●宝生会
能シテ方五流儀の中で、宗家を頂点として一流儀一家という結束力を誇る。現在の宗家は二十世・宝生和英(ほうしょう かずふさ)。39歳の若さを武器に進取的な取り組みで、これからの能の可能性を常に追求している。「体感する能」と称した、切り絵アーティストや映像クリエイターとのコラボ演出・公演は特筆に値し、今の人達に生きた能楽の魅力を発信し続けている。会を構成する能楽師は重鎮から若手まで層が厚く、宝生会がひとつとなって、その伝統と革新力で、精力的に能楽堂公演や子供向け企画などを行っている。

宝生能楽堂での定期公演
・特別公演 「翁」「道成寺」など習い物や人気曲を上演。年に数回特別会を実施。
・定期公演 ベテラン・中堅・若手・女流と幅広い能楽師がシテを務める、中心的存在の会。
・青雲能 若手のみで構成される会。
・夜能 声優の朗読と演能など、毎回企画を変えて実施。

以下は主な宝生会と宝生能楽堂の歴史。
明治18年 松本金太郎が神田猿樂町に能舞台を建設
明治26年 舞台改装を機に宝生会定期能を開催
明治45年 社団法人組織となる(関東大震災にて焼失)
昭和3年 現在の文京区本郷(旧松平邸)に豪華な能楽堂を建設(昭和20年戦火にて焼失)
昭和25年 同場所に水道橋能楽堂として再建
昭和54年 現在の宝生能楽堂が建設され、現在に至る

宝生会と影向舎
当申請は、能楽界のトップランナーである宝生会と、学校公演の業界を長年牽引してきた影向舎が、その若さならではの新しい感覚と、長年に亘る公演実績を融合し企画した内容です。平成30年度の「文化芸術による子供の育成事業」ではEブロックにおいて22校、令和元年度の「文化芸術による子供育成総合事業」ではBブロックにおいて19校という、多くの公演実績を残してまいりました。また令和2年度(Fブロック)はコロナ禍で当初公演中止が相次ぐ状況において、宝生会出演者の協力により愛知県・東京都・山形県で追加公演を7校実施することができました。続く令和3年度も公演中止が多くあったが、7校・9ステージの公演を実施し、比較的能楽公演が少なかった四国エリアにおいて、それまでの経験と実績を活かして子供たちの記憶に残る企画を行い、高い評価を頂戴しました。6年度の「舞台芸術等総合支援事業」では、Bブロックの広範囲において、さらに本年度はEブロックの広範囲で公演を展開しています。双方の総合力や演出力またネットワークなどの利点を十二分に発揮して、各地各校の児童・生徒の皆さんの若い心に、能楽の素晴らしさをお届けします。

【別添①をご参照ください】

学校巡回公演に向けて 宝生流第二十代宗家 宝生和英

能楽は世代間ギャップが無く、祖母から孫まで一緒に楽しめる魅力を秘めています。能楽を学ぶ事は、順序立てた自身の主張能力を培い、人・社会とのコミュニケーション能力を高めます。

学びの体験は全員参加で無ければ意味がありません。楽しみながら能面・能装束を身に付けてください。そしてその経験を、友達や家族の人と共有してください。

私も、皆さんにより近く同じ目線で設営された能舞台で舞うことによって、学ぶ・観るの二大要素を網羅したこの事業の素晴らしさを伝えたいと、強く願っています。



- (株)影向舎 古典芸能分野では全国一の実績を誇る。
- ・東京都主催による「こども能チャレンジ」の事務局を担当。
 - ・平成20年度「本物の舞台芸術体験事業」能楽分野にて参加。
 - ・平成21年度「本物の舞台芸術体験事業」能楽分野にて参加。
 - ・平成22年度「子どものための優れた舞台芸術体験事業」能楽分野にて参加。
 - ・平成23年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」能楽分野にて参加。
 - ・平成24年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」能楽分野にて参加。
 - ・平成25年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」能楽分野にて参加。
 - ・平成30年度「文化芸術による子供の育成事業」能楽分野にて参加。
 - ・令和元年度「文化芸術による子供育成総合事業」能楽分野にて参加。
 - ・令和2年度「文化芸術による子供育成総合事業」能楽分野にて参加。
 - ・令和3年度「文化芸術による子供育成総合事業」能楽分野にて参加。
 - ・令和4年度「文化芸術による子供育成推進事業」能楽分野にて参加。
 - ・令和6年度「舞台芸術等総合支援事業」能楽分野にて参加。
 - ・令和7年度「舞台芸術等総合支援事業」能楽分野にて公演実施中。
 - ・令和2年度補正予算「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」の学校による提案型、文化施設等活用型[水道橋宝生能楽堂他]で15校・22ステージの公演を実施。
- 名古屋市立篠原小学校・足立区立伊興小学校・足立区立新田学園・北区堀船小学校・新宿区立第三小学校・江戸川区立船堀小学校・大田区立久原小学校[宝生能楽堂使用]・川口市立芝中学校・川口市立芝南小学校・酒田市立宮野浦小学校・酒田市立松山小学校・酒田市立田沢小学校[庄内能楽館使用]・志木市立志木第二小学校・志木市立宗岡第三小学校・台東区立金曾木小学校
- ・令和3年度補正予算「子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業」の学校による提案型で3校・5ステージの公演を実施。
- 北海道岩見沢東高等学校・高岡市立千鳥丘小学校・高岡市立能町小学校
- ・平成21年度～令和6年度「北海道巡回小劇場」に16年度連続で参加。

学校等における 公演実績	<p>●(公社)宝生会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝生会主催による「夏休み親子教室(旧称:夏休みこども仕舞教室)」を平成18年より毎年開催(文化庁「伝統文化親子教室」事業として参加)。今年で20年目を迎える。 ・山形県酒田市「庄内能楽館親子仕舞教室」を実施(平成28年～) ・公益社団法人能楽協会主催「キッズ伝統芸能体験」事業に参加 <ul style="list-style-type: none"> …講師(能楽師)派遣および稽古場、発表会(宝生能楽堂)の提供 ・「韓国青年訪日研修団」能楽体験教室、「東京国際フランス学園」能楽教室を開催 <ul style="list-style-type: none"> …型の体験、装束付け実演など ・各校修学旅行プログラム「能楽体験ワークショップ」を開催 <p>過去実績:岐阜県可児市立広陵中学校、愛知県大府市立大府中学校、岐阜県垂井町立北中学校、岐阜県垂井町立不破中学校</p> <p>「桐生市能楽教室」(桐生市内の小中学校合同にて)</p> <ul style="list-style-type: none"> …能楽囃子楽器の体験、舞と謡の体験、装束付けの実演など <p>・学生鑑賞会</p> <p>過去実績:三田国際学園(旧:戸板学園)中学校、東京農大第一高校</p> <ul style="list-style-type: none"> …能、狂言の公演 <p>平成26年・27年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港区キスポート財団主催「赤坂能ワークショップ」事業受託 ・港区立台場保育園、港区立麻布保育園、年長児に「猩々」謡の稽古、発表会への出演 ・公益財団法人日韓交流基金より対日理解促進交流プログラム(JENESYS2.0)事業を受託 <p>平成28年</p> <p>【JENESYS2015】韓国青年訪問団(高校生)第1・2・3団</p> <p>【JENESYS2016】韓国教員訪日団 第1・2団実施</p> <p>10月4日 開成高校能楽鑑賞会</p> <p>11月18日 静岡県袋井小学校鑑賞会</p> <p>12月19日 多摩高等学校能楽鑑賞会</p> <p>平成29年</p> <p>2月15日 韓国青年訪日団第10団 能楽ワークショップ</p> <p>2月27日 慶応義塾横浜初等部 能楽鑑賞会</p> <p>8月20日 文京区「みんなで楽しむ 能・プロジェクト」</p> <p>平成30年</p> <p>2月24日 慶応義塾横浜初等部 能楽鑑賞会</p> <p>8月12日 文京区「みんなで楽しむ 能・プロジェクト」</p> <p>平成31年・令和1年</p> <p>2月14日 学習院中等科能楽鑑賞会</p> <p>3月17日 墨田区能楽鑑賞ワークショップ</p> <p>8月1日 ウィズダムアカデミー運営の学童保育の育成時間で能楽体験(幼稚園児から小学生児童約100名)</p> <p>令和3年</p> <p>9～10月 文京区主催の区内中学校(10校)の合同能楽鑑賞会【会場:宝生能楽堂】</p> <p>11月10日 浦和明の星女子中・高等学校 能楽鑑賞会</p> <p>令和4年</p> <p>8月10日・12日 目黒区親子能楽体験教室</p> <p>8月28日 岸和田高等学校鑑賞会</p> <p>令和5年</p> <p>6月6日 藝大高校能楽ワークショップ</p> <p>6月16日 ドルトン東京学園能楽鑑賞会</p> <p>9月28日 西武台高等学校・西武台新座中学校能楽鑑賞会</p> <p>12月1日 下館第一高校能楽鑑賞会</p> <p>令和6年</p> <p>2月22日 東邦大東邦中学校能楽鑑賞会</p> <p>4月25日 大宮高校能楽鑑賞会</p> <p>5月31日 錦城高校能楽鑑賞会</p> <p>6月14日 開明高校鑑賞会</p> <p>令和7年</p> <p>4月30日 横浜女学院中・高等学校能楽鑑賞会【会場:宝生能楽堂】</p> <p>5月30日 錦城学園高校能楽鑑賞会【会場:宝生能楽堂】</p> <p>7月1日 東海大浦安高校能楽鑑賞会【会場:宝生能楽堂】</p> <p>7月10日 蔵高等学校能楽鑑賞会</p> <p>7月16日 千葉東高等学校能楽鑑賞会【会場:宝生能楽堂】</p> <p>11月20日 聖園女学院高等学校能楽鑑賞会</p>
特別支援学校等における公演実績	<p>平成22年12月2日(木) 埼玉県立本庄特別支援学校にて公演</p> <p>平成23年11月30日(水) 京都市立鳴滝総合支援学校にて公演</p> <p>平成30年10月5日(金) 愛知県立岡崎盲学校にて公演</p>

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/xv75nKclZq4	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添	あり
----	----

【公演団体名 公益社団法人 宝生会 】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	はじめまして 能 “楽”			
企画のねらい	<p>体験と鑑賞を通して能楽の楽しさを知ってもらう</p> <p>能楽は日本が世界に誇る伝統芸能です。七百年前に産声をあげてから今に至るまで万人を魅了するエンターテインメントです。その楽しさを知るには、無数の先人が磨き築いてきた演出や決まり事を学ぶことから始まります。”ただ能動的に学習して観る”のではなく、ワークショップでは興味を持って体験をして能楽を構成する要素を身につけ、本公演では本格的な環境で鑑賞していただきます。そして何より一貫して楽しんで体験と鑑賞することを第一義にしております。</p> <p>○「能」と「狂言」を体験そして鑑賞 能楽を構成するのは能と狂言です。能楽を知るには両芸能が不可欠です。ワークショップはシテ方だけでなく、狂言方も参加してそれぞれの特徴を体験してもらいます。本公演では代表的な演目『盆山(狂言)』と『黒塚(能)』をご鑑賞いただきます。</p> <p>○ワークショップから本公演につながる企画 ワークショップでお稽古した謡を、本公演の最後に能楽師と一緒に謡います。児童・生徒さんが巡回公演の締め括りを担います。</p> <p>○全員が体験 数名の代表者に体験を限定しません。全員が能面を掛け、装束を羽織ります。謡いも全員で謡い本公演の最後を飾ります。</p> <p>○分かり易い演目 大半の子供にとって、この巡回公演が能楽鑑賞の出発点になるでしょう。きっかけづくりとして分かり易く代表的な演目を構成します。</p> <p>○本格的な能舞台 能楽鑑賞には、能舞台の機構が大変重要です。あらゆる体育館に常設能楽堂に限りなく近い能舞台を設置します。</p> <p>○映像を演出効果として活用 宝生能楽堂を多角度から撮影編集したバーチャル能楽堂、後方でも見える楽器のライブカメラ投影、能『黒塚』の現代語字幕など。</p> <p>○家庭でも能楽が話題になる 巡回公演事業は本公演終演で完了ではないと考えます。児童・生徒さんそれぞれが感想や興奮を家庭に持ち帰り、ご家族と共有してくれたら、事業の価値が高まります。家庭で共有できる限定動画をアップします。</p> <p>【別添①をご参照ください】</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>狂言『盆山』</p> <p>①動物の鳴きまねなどがあり、子どもにも分かりやすいため、上演希望が多い人気曲目。 ②悪さが見つかり、それを取り繕うとする人間の本性を喜劇に昇華した狂言の典型的作品です。 ③狂言の大きな特徴である「名乗り」「道行き」「擬音の発声」が、全て網羅された入門編に最適な演目です。 ④笑いが多い狂言を番組の最初に構成することにより、能楽鑑賞は難しいという先入観を払拭します。</p> <p>能『黒塚』</p> <p>①“多角的なものの見方”を芸術鑑賞で養うために、我々の日常生活の善悪基準とは異なる視点で描かれた演目を選択しました。 ②学校公演(子供・青少年向け)の能楽公演でよく上演される演目です。 ③昔話風の展開で、教訓的要素がある物語です。 ④鬼女と山伏の争いの場面は大変迫力があり、児童・生徒さんの興味を引きます。またその場面でのお囃子は、三鬼女と呼ばれる「道成寺」「葵上」そして『黒塚』のみでみられる迫力のある特殊なリズムを奏で、疾走感・緊張感が溢れています。 ⑤『黒塚』の鬼は、他の鬼女物にはない、老婆から人食い鬼になってしまった人間の悲哀が込められています。また用いられる大道具(作物)・小道具(梓輪軸など)も能独特の演出が施されています。 ⑥コミカルで楽しい役回りとなっている能力(狂言方)が、こっそり寝屋を覗こうとするシーンは、演能の中で笑える部分となっており、見所の一つです。また、本事業公演では通常の演能より派手な演出となっております。</p>			
児童・生徒の参加または体験の形態	<p>○ご挨拶 礼儀を重んじる伝統芸能。全員で正座をしてご挨拶をすることにより、演者と客席に一体感が生まれます。正座をする機会が少ない昨今において、伝統芸能を通して日本人の礼儀の清々しさを感じてもらいます。</p> <p>○能の体験 能の姿勢と運歩を、能楽師と一緒に行います。簡単そうに見えて意外に難しい能楽の基本中の基本を学びます。また能の泣く所作“シオリ”を稽古し、能『黒塚』で観る主役の悲しい心情を、感じ取ります。</p> <p>○狂言の体験 狂言の特徴はセリフ喜劇です。「このあたりの者でござる」といったセリフ発声や、狂言の“大笑い”をして、狂言の魅力を感じます。</p> <p>○能面・装束体験:本物の能面・装束を身につける 普段、プロの能楽師が使用している能面と装束をご用意します。能面は顔に掛けると、その視界の狭さに驚き、装束は重厚感と絢爛豪華な美しさに感激します。実際に児童・生徒さんが自身の顔に掛け体に羽織ることにより、楽しみながら能楽師の演技の奥深さを垣間見ることが出来ます。 ※宗家の強い意向、出演者また制作団体の総意により、全員参加を原則としています。</p> <p>○能『黒塚』の最後に附祝言「千秋楽」を全員で謡う 能楽堂でも演じられる一日の公演を平和な気持ちで終える附祝言を、巡回事業の特別プログラムとして構成しました。ワークショップ後には、各校用CDと児童・生徒さん全員分の教材をお渡しします。また教材には各家庭でも稽古ができるように、動画サイト《対面稽古映像(シテ方宝生流が出演・謡の節をカラオケ形式で分かりやすく演出)をアップ》のURLを記します。</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	700名〔附祝言「千秋楽」を全員で謡う〕	
		鑑賞人数目安	700名	

本公演・ワークショップの内容	本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>1、狂言『盆山』 慌てた人間が咄嗟にとる滑稽な行動の面白さを題材とし、狂言特有の動物の鳴き真似がふんだんに演出に盛り込まれた人気曲。本公演のスタートは笑いたっぶりの狂言からお楽しみいただきます。 ” あれは猿じゃ ” ” キャア キャアキャアキャア ”</p> <p>2、囃子方の実演と解説 能楽の音楽を担当する囃子方の4名が切戸口から登場。それぞれの楽器の特徴を実演を交えてご紹介します。 ・雛人形の五人囃子の並び方は能楽が起源になっています。舞台上の出演者の座り方と五人囃子のスクリーン映像を比較してご説明。 ・能『黒塚』でも構成されている「早笛」の演奏をお聞かせいただきます。体に響く4つの楽器の調和を体感してください。 ・笛は唱歌が記された教本で旋律を覚え。まず笛で演奏し、それを笛方が声で表現します。その後、唱歌をスクリーンに映し、 児童・生徒さんがゲーム感覚で「ヒウラウラウラウラロ」と唄い、それに笛方が演奏を加えます。 ・小鼓と大鼓は、非常に湿度や温度に敏感な楽器です。小鼓は湿気を必要とするのに対し、大鼓は皮をカラカラに乾燥させて独特な高音を奏でます。スクリーンに能楽堂の焙じ室を映し、実際に大鼓を焙じている様子をご覧ください。また両方の楽器の音色の違いを実演し、その特異性をご説明します。 ・太鼓は真ん中の小さな梓草をねらって打ち、激しい音を出します。その構造をご説明しながら、叩くリズムを、児童・生徒さんも一緒に練習してもらいます。 ・囃子方にとって「ハア〜ヨオー」という“掛け声”が大変重要です。掛け声がきっかけで演奏の強弱や調子を変え、またシテ方などの演技の合図にもなります。それを分かり易くご覧いただくために、囃子方4名それぞれが見えない様に四方を向いて座り、掛け声のみを合図に演奏します。 ・各楽器の外観や構造を、まんべんなくご覧いただくため、スタッフがライブカメラを用いて、その場で映し、スクリーンに投影します。</p> <p>3、能の役割の紹介 能は、シテ方と三役と呼ばれるワキ方・狂言方・囃子方の4つの役割が一体となって演じられる芸能です。口頭だけでなく、それぞれの役割や装束の違いをスクリーンに投影して、立体的にご紹介します。</p> <p>体験・展示コーナー [休憩中] ・能面は下に傾けると悲しげ、上に傾けると明るい表情に変わります。チョットした角度で変化する能面の不思議を知ることができる特殊面掛けをご用意。 ・能楽師がご指導をしながら、気軽に顔に掛けてもらえる体験です。ワークショップで体験できなかった児童・生徒さんや近隣の方など、開演前、休憩中、終演後にお越しください。その視界の狭さと装着感を体験してください。 ・狂言方が舞台で使う足袋に特徴があります。狂言足袋は色に秘密が隠されています。その由来のご説明文と、実際の足袋を展示します。 ・能楽師の主役が着用する華やかな唐織や、狂言装束の代表格である絵柄がユニークな肩衣など、能装束と狂言装束の模様・素材の違いを、間近でご覧いただけます。 ・ワークショップにはなかった頭と扇を体験。黒塚の鬼女が被る頭。鬼の恐ろしさを演出します。何の毛で出来ているのかわかりますか？なんとヤクの毛！扇はただ開くだけでなく開き方に決まりがあります。能楽師が指導をしますので、自分も能楽師として体験してください。</p> <p>4、ワークショップで覚えた附祝言「千秋楽」のおさらいと能『黒塚』のみどころ解説 ・舞台に出てくる作り物は、黒塚の演出において重要な役割をする大道具です。それは野原の一軒家、老婆の家の中、そして老婆の寝室へと変幻します。実際にあらすじ説明の時に、舞台上に出て、より黒塚への興味を引き立てます。 ・なぜ、おばあさんが鬼になってしまったのか？考えながら舞台を見てみましょう。</p> <p>5、能『黒塚』[字幕(現代語訳)付き] 能舞台裏から、囃子方が奏でるお調べが聞こえてきたら、いよいよ能が始まります。 ” びいー かん ばん てん ” これから鑑賞いただく『黒塚』には、ワークショップでの体験や、本公演前半の実演・解説のエッセンスが全て集約されています。 気持ちをゆったりとさせ、体育館で繰り広げられる能楽の世界をたっぷりとご堪能ください。</p> <p>6、ワークショップと本公演の集大成 附祝言「千秋楽」を一緒に謡う</p> <p>7、アフタートーク 『黒塚』についての出演者からの問いかけと、皆さんからの質問 解説役の能楽師と、さらに主役の老女と鬼女を演じた“おシテ”(主役)が役を終えて、人間に戻って再び舞台上に登場します。『黒塚』にはその前段になる「黒塚伝説」があります。その伝説をイラストなどを、交えてご紹介します。鑑賞を終えた高揚感に包まれている時に、さらに能の奥深さを、体に吸収します。 鬼女となって登場したシテが背負っていた小道具・負衆。「なぜ鬼が薪を・・・」シテ(主役)の出演者が、それぞれの役者目線で意味をご説明します。鑑賞した皆さんはどう思いますか？ どうして優しくったお婆さんは、鬼になってしまったのかな？それでは実際に、鬼に聞いてみましょう！ まずは出演者から質問を投げかけます。それに自由に答えください。次に観たままの児童・生徒さんの率直な質問をお受けします。</p> <p>8、公演後 動画を配信(本事業での内容を集約) 本公演終了で、この事業は終わりません。本当の価値は児童・生徒さんが、その体験や鑑賞を友達と、また家族の皆さんと共有してもらうことです。「能面を顔に当てると見づらいよ」「大きい声で千秋楽を謡ったよ」「迫力があつたよ」という感想をご自宅で話してもらう事は、もちろんですが、さらに家族みんなで様子を映像で観ることが出来れば、より臨場感を持って子供たちの豊かな発想や感激を知ることができます。能楽を通して家族の新しいコミュニケーションに役立ててください。</p> <p>【別添③をご参照ください】</p>	
		<table><tr><td>公演時間</td><td>100</td><td>分</td></tr></table>	公演時間
公演時間	100	分	
出演者		<p>シテ方:宝生会 10名 宝生和英・辰巳満次郎・山内崇内・野月聡・大友順・小倉健太郎・水上優・小倉伸二郎・小林晋也・和久莊太郎・高橋憲正・澤田宏司・亀井雄二・東川尚史・佐野玄宣・藪克徳・内藤飛能・當山淳司・佐野弘宣・辰巳大二郎・金森良充・金野泰大・川瀬隆士・田崎甫・今井基・辰巳和磨・金井賢郎・朝倉大輔・藤井秋雅・木谷哲也・上野能寛・鶴田航己・石塚尚寿・岩上昂平・柏山聡子・土屋周子他 より出演 三役(ワキ方2名・狂言方3名・囃子方4名):主に各本公演クールで連続出演可能な能楽師を配役</p>	

演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	宝生和英 1986年生まれ。第19代宗家宝生英照の長男。能「西王母」子方にて初舞台。2008年に宝生流第20代宗家を継承。披き曲および一子相伝曲全てを修める。NHK大河ドラマ「篤姫」「天地人」に出演。第40回松尾芸能新人賞受賞。 2023年ミラノ大学客員教授。2024年Disney＋配信のドラマ「SHOGUN将軍」では劇中能の監修・制作を行う。2024年10月16日より発売される少年サンデー「シテの花 -能楽師・葉賀琥太郎の咲き方-」(能楽を通した高校生の成長物語)の監修を行う。 重要無形文化財総合指定保持者。											
	従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む		出演者: 19 名 スタッフ: 6 名 合 計: 25 名		運搬		積載量: 2 t 車 長: 6.3 m 台 数: 1 台					
	本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安		前日仕込		無		前日仕込所要時間					
			到着		仕込		上演		内休憩			
			8:30		8:30～12:00		13:00～14:40		10分			
							撤去		退出			
							14:40～17:00		17時00分			
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。											
	本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。		6月		7月		8月		9月			
			15日		10日		0日		15日			
10月			11月		12月		1月					
16日			17日		20日		18日					
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					計		111日					
<p>(図1)アリーナに舞台設営 [ステージを背に体育館を縦使用] 座席は正面・脇正面・中正面を使用する能楽堂形式</p> <div></div> <p>(図2)アリーナに舞台設営 [アリーナ長辺壁を背に体育館を横使用] 座席は正面・脇正面・中正面を使用する能楽堂形式</p> <div></div> <p>(図3)スクリーン [現代語字幕・ライブ投影など]</p> <p>(図4)展示 [装束・面・頭ほか]</p>												
著作権、上演権等の許諾状況		各種上演権、使用権等の許諾手続の要否				該当なし		該当コンテンツ名				
		該当事項がある場合		権利者名				許諾確認状況				

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

あり

【公演団体名

公益社団法人 宝生会

】

ワークショップの
ねらい

○プラスの記憶を残す

ワークショップでは、能はしっかりと鑑賞するもの！ではなくて、体験や目の前の実演を通して“能楽って楽しいな”という印象を持ってもらう宣伝効果が重要です。それにより児童・生徒さん達が、本公演に対して“早く観たいな”という期待に、必ずつながります。

○体験と同じく体感

能の基本姿勢や狂言の発声の体験だけでなく、能装束を羽織ってそのズシとした重量と厚みを感じ、能面を掛けて、極端に見えづらくなる視界を感じてもらいます。“能楽師の人達は、こんなに重い衣装と見づらい能面を付けて演技をするんだ”とか“昔の貴族はこんな豪華な衣装を好んで着ていたんだ”とか、自由な感想が生まれます。

○能楽は伝統芸能。だけど今に生きている

能楽は、日本の長い歴史の中で上流階級・武士・庶民など様々な人間が、日々繰り広げた喜怒哀楽を結晶にした壮大な舞台劇です。それは決して博物館のショーケースに展示されるものではなく、今でも各地で上演され、新しい感動を創り続けています。とかく難しいと敬遠されがちな伝統芸能ですが、観る切り口を変えることによって、楽しみ方が大きく変わります。ワークショップでは、体験・動画・体感を効果的に配して、能楽の魅力への大きな一歩を、踏み出すきっかけをご提供します。

○ワークショップから本公演に向けて

ワークショップはワークショップのみで終了ではありません。後日の本公演をより楽しく鑑賞するための重要な入口であり、キッカケづくりです。ワークショップで体験したこと、観たことを繋げるべく、本公演までの日数を効果的に復習できる教材等を企画しました。

【下段の「その他ワークショップに関する特記事項等」をご参照ください】

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

700名まで

1、はじめまして 能“楽”

大半の児童・生徒さんまた先生方にとって、能楽体験は初めてだと思います。また能楽師が何をする人達かも見当がつかないでしょう。まずは能楽師から皆様にサプライズ。堅苦しい挨拶は後にして、実演をご披露します。

・能役者三人が すー と舞台上に登場。二人は正座をして迫力ある謡いを謡う。また一人はその謡に合わせて華やかに舞いを舞う。
” げにさまぎまの舞姫の 声も澄むなり住吉の 松影も映るなる 青海波とはこれやらん ”

・入れ替わりに狂言役者が登場。舞台をゆっくりと動きながら、物柔らかなセリフを話している。
” 東京に住まい致す狂言方の者でござる。今日は〇〇学校に参ろうと存ずる。
まず、ソロリソロリと参ろう。・・・いや、何かと言ううちに、はや〇〇学校じゃ ”

2、自己紹介

「皆さんこんにちわ。いかがでしたか？突然始まって驚きましたか？今御覧頂いたのは、能の仕舞と、狂言の名乗りと道行きでした。」

「私はシテ方宝生流能楽師の〇〇です。」「私は狂言方と泉流能楽師の〇〇です。」

ワークショップ
実施形態及び内容

3、能って？狂言って？

能と狂言の2つの芸能を合わせて能楽と称されます。まるで兄弟のような関係ですが、それぞれ演出方法が異なります。人間の感情表現を例にその違いを実演します。

- ・喜び 能：「ユウケン」広げた扇を胸の前で上下させて歓喜を表す。声は出さない。
狂言：大きな声で「ハーツハーツハツ」。満面の笑みで喜びを表現する。
- ・悲しみ 能：「シオリ」手に目をあてるように（着物の袖で涙を拭う様）悲しみを表現。
泣き声は出さない。
狂言：シオリは能と同じ。声を出して「エッヘッ、エーン、エーン」
- ・怒り 能：足拍子を踏みながら、怒りの対象物を、キッと睨みつける。
狂言：能と同じく足拍子を踏み「腹立ちや、腹立ちや」と怒りの声を出す。

4、能楽師になってみよう まずはご挨拶から

いよいよ皆さんの体験です。つまりお稽古です。能楽師はお稽古の前に必ずご挨拶をします。正座をして、背筋を伸ばして、しっかり頭を下げて、大きな声で「よろしくお願ひします」

- ・「カマエ」能楽師は舞台上で、ただ立っているのではありません。腰を少し落として、膝を少し曲げて、肘を張って綺麗な姿勢を保ちます。
- ・「ハコビ」カマエができれば、そこから動きます。動くときもカマエを崩さずに、足裏を床に擦りながら（スリ足）、頭が上下左右に動かないように、しっかりと前だけを見て、前に進みます。
- ・「シオリ」能楽師の人達が実演した泣く所作です。うつむきながら、悲しい気持ちになって、そっと左手を目に近づける。
- ・狂言の発声 狂言方の人の真似をして、とにかく大きな声で”このあたりの者でござる”
狂言は抑揚も大事です。このあたりのものでござる 二字目”の”を強調します。
- ・狂言の笑い 全員で体育館が壊れるほどの大きな声と、ニコニコ笑顔で「ハーツハーツハツ」
- ・代表の児童・生徒さんに実際に能面を掛けて実演してもらいます。男女1名ずつステージにあがってもらいます。能面は能楽と切っても切れない大変重要な道具です。
 - ①能面の傾き方で表情が変わります。下を向く（クモル）と悲しげ、上に向く（テル）と嬉しげ
 - ②一人の代表者は能面を掛けて、ハコビをやってみましょう。お稽古と同じように動けるかな？
 - ③もう一人の代表者は能面を掛けて、本公演の能『黒塚』で使用される「杵杵輪（糸車）」を回してもらいます。見づらい視野で回せるかな？

5、能楽しぐさクイズ

能楽は限られた所作と小道具を駆使して、様々な場面を表現します。

- ・何かを引いて、それが当たって倒れた？ 能「殺生石」より…弓をつがえて矢を放ち、それが獲物に当たる。能役者一人で二役を演じる。
- ・「びょうびょうびょう」何の動物の鳴き真似か？ 狂言「盆山」より…なんと犬でした。

6、能楽の成り立ち

能楽は700年という長い歴史を経て、現代でも演じ続けられている芸能です。その歴史において様々な変遷がありました。オリジナル時代スライドを投影しながら、能楽師が簡潔にご説明します。

7、バーチャル能楽堂体験

宝生会は東京文京区水道橋に由緒ある宝生能楽堂を有します。その能楽堂を影向舎が共同で製作した「バーチャル能楽堂」動画をご覧ください。能楽堂の世界に行ってらっしゃい！

- ・室内の劇場なのに屋根がついている。
- ・観客席が舞台の左側にもある。
- ・出演者が準備をする楽屋の様子は…
- ・舞台から客席を見ると、こんな感じ。

8、能『黒塚』のおはなし

本公演で上演される能『黒塚』のあらすじを、オリジナル漫画投影を交えて解説します。本公演をお楽しみに。

	<p>9、謡「千秋楽」のお稽古 能楽公演ではその日の演能をめたく舞納めるために、最終演目が祝言性が低い演目だった場合に「附祝言」を能楽師が謡って、お客様にお帰りいただく演出があります。生徒・児童さんには附祝言の代表的な謡である「千秋楽」を稽古してもらい、本公演で能楽師と一緒に謡ってもらいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「千秋楽」は高砂という曲のキリ(終局部)で、附祝言の代表的な謡です。 ・ワークショップでお稽古をして、本公演までの期間でおさらいをしてもらいます。 《ワークショップ後に謡音声CDと、各児童・生徒さん分の小冊子(「千秋楽」の独自稽古ができる動画サイトのURLを記載)をお渡しします》 ・全員で参加する謡です。本公演の最後に能楽師と一緒に謡って、能楽の根幹にある寿ぎの気持ちを体育館に満たします。 <p>10、能楽体験ひろば 装束と能面は、能の必須アイテムです。実際にシテ方宝生流能楽師が使用する装束と能面を、児童・生徒さんに身につけてもらい、プロと同じ感覚を体験してもらいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒さん全員参加です。 ・装束の重さを体感してください。 ・装束はいくらぐらいだと思いますか？ 軽自動車1台が買えちゃう！ ・能楽師は能面を掛ける時に、必ず能面に礼をします。それだけ大事な物。 ・顔につけると周りの視界はどう変わる？ 前の一部しか見えません。能楽師はこの限られた視界で演技をします。 <p>11、ご挨拶 能楽は、礼に始まり礼に終わる芸能です。正座をして、背筋を伸ばして、しっかり頭を下げて、大きな声で「ありがとうございました」</p> <p style="text-align: center;">本公演をお楽しみに。「千秋楽」のお稽古もしてくださいね。</p> <p>【別添②をご参照ください】</p>
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>○ワークショップ終了後に、児童・生徒さん全員分の教材をお渡しします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『黒塚』のあらすじを漫画化。本公演実施までに日数が空いても、分かり易く演能『黒塚』をおさらいできます。 ・謡「千秋楽」の節付ひらがな詞章と能楽師の音声を動画サイトにアップします。そのQRコードやURLなどを掲載。児童・生徒さんが学校で謡った千秋楽のお稽古もでき、また家族で話題にもなります。 ・付録的に能面ページを掲載。切り取り線に合わせてハサミを入れると、紙製の能面が完成します。それを顔に当てると、ワークショップで体験した能面の視野の狭さを、再度体験できます。また学校でのワークショップで完結せずに、その体験や興奮を家族で共有をして、能楽の楽しさを広げてもらいます。 <p>○ワークショップ終了後に、謡「千秋楽」の音声を収録したCDをお渡しします。 ワークショップでのお稽古だけでは、謡の節を習得するのは困難です。実際に能楽師が謡った音声を収録したCDを各校にお渡ししますので、給食中、昼休みなどのなるべく多くの機会に校内放送で流してください。若い人は、文字で覚えるよりも、耳で聴き口に出すのが大人より長けています。是非皆さんで本公演『黒塚』のクライマックスを飾りましょう。</p>

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 公益社団法人 宝生会 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。				
会場の設置階の制限	2F以上応相談		主幹引き込み電源容量		40 A以上
舞台設置面積	間口	18.5 m	奥行	8 m	
	高さ	4 m			
舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応	条件が合えば可	
搬入間口の広さ	幅	2 m	高さ	2 m	
遮光の要否	不要		緞帳の要否		あれば使用する可能性がある
ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定		
			ピアノを使用しない場合の移動の要否		条件なし
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		30 m以内
搬入車両の種類	中型トラック		台数	1 台	
搬入車両の大きさ	車幅	1.88 m	車長	6.23 m	
備考					

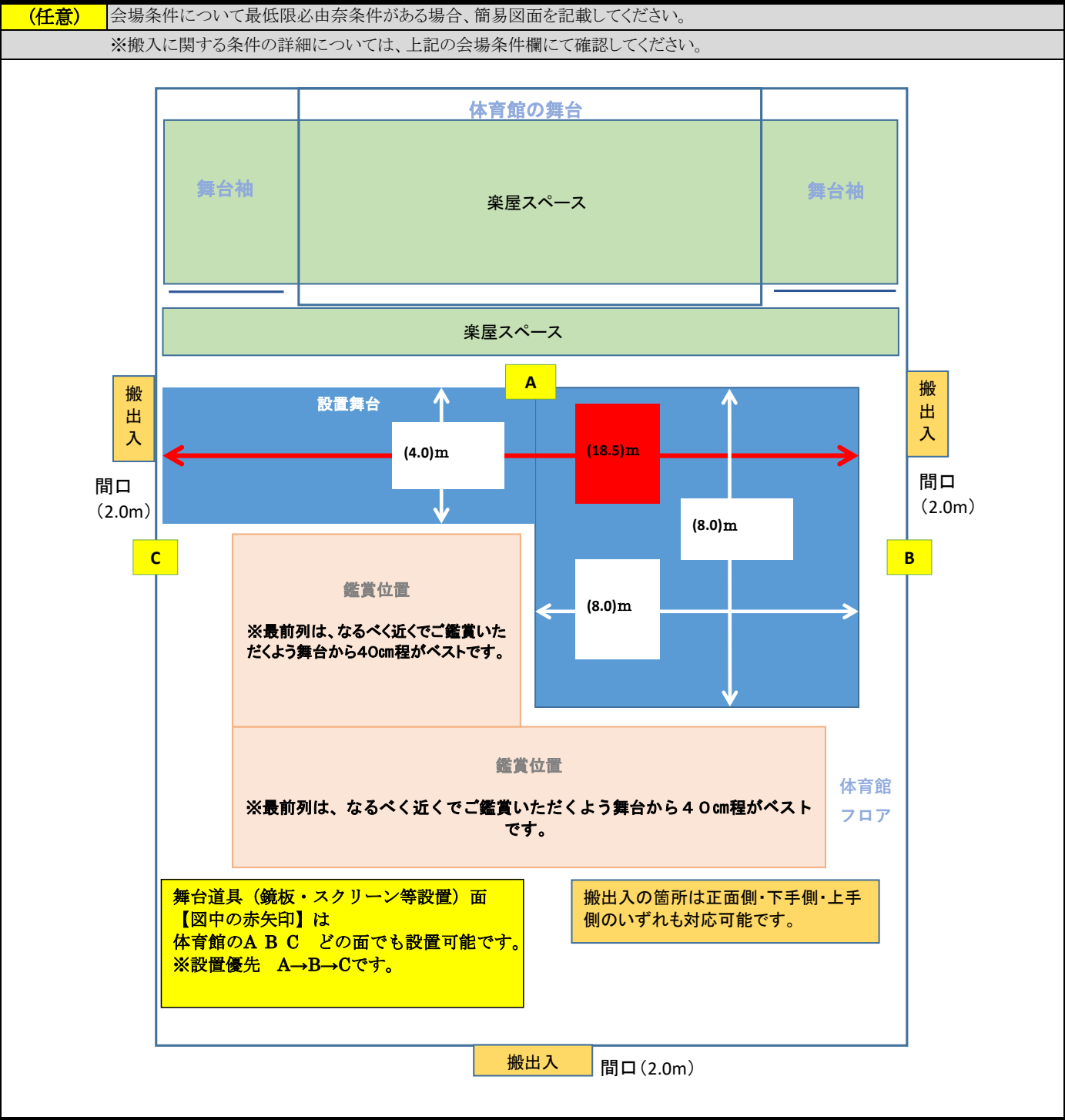
※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)		

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
	本公演	その他(備考に記載)	不定	不定	附祝言「千秋楽」を能楽師と一緒に謡う	YouTubeの動画URLを小冊子に記載し、ご自宅でお稽古が可能です。また音源CDを学校にお渡ししますので給食時間など学内放送で流していただければ、子供達が本公演に対する興味をさらに高めることができます。
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		



別添

なし

【公演団体名 公益社団法人 宝生会 】

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

【能の魅力により多くの若い世代へ】

本事業に携わる以前、私どもは数多くの学校公演を企画・制作してまいりました。そのなかで人気が高かったのは落語や狂言であり、能を希望される学校はほとんどありませんでした。私ども影向舎は常に「なぜ能を観る人が少ないのか」という疑問を抱いてきました。そしてその原因を探るうちに、従来の制作・演出方法が“能を既に知っている人”に向けられたものであり、“初めて観る人”の視点を十分に考慮していなかったという結論に至りました。平成20年度に本事業へ参加するにあたり、私たちは原点に立ち返り、「能をもっと楽しんでもらうため」に能の魅力を一度分解し、観る人の目線に立って効果的に組み立て直すことから始めました。

以降、ワークショップや本公演を重ねるたびに、現代語字幕のスクリーン投影、事前指導用教材の配布、客席との距離を縮めた舞台設営など、入場から終演までの一分一秒に心を配り、子どもたちが能を楽しめる仕組みを工夫してきました。その成果は公演中の児童・生徒さんの様子にも表れています。過去の本事業公演では子どもたちがおしゃべりをするのではなく、ある小学生は舞台に向かって「鬼、負けるな！がんばれ！」と声援を送りました。『黒塚』が単なる勧善懲悪の物語ではなく、人間模様を凝縮した深いドラマであることに、若い心が共鳴した瞬間でした。

能楽は、日本人が長い歴史の中で磨き上げ、無駄をそぎ落とし、人間の感性・感情を極限まで昇華した究極の舞台芸術です。私ども宝生会と影向舎は、業界トップとしての誇りと実績にかけ、今後も能の素晴らしさをより多くの子どもたちに楽しんでもいただくため、様々な演出・工夫を重ねてまいります。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

【ワークショップから本公演へ — 「次が楽しみ！」をつくる体験】

“体験がそのまま舞台につながるから、ワクワクが続く！”

ワークショップは、ただ学ぶ場ではなく「能楽って面白そう」と思ってもらうためのきっかけ創りです。サプライズ・笑い・映像を使い、能楽の世界を楽しく紹介します。体験する所作や発声は、本公演で上演する『盆山』『黒塚』から引用し、鑑賞への自然な流れを作ります。さらに、ワークショップと本公演の間隔を活かし、CD・教材・動画を配布して予習・復習をサポート。「次の公演が待ちきれない！」という気持ちを育てます。

【体育館が一日だけ能楽堂に「え、ここが体育館！？」という驚き】

“いつもの体育館が、幽玄の世界に変わる！”

本公演では、能楽堂を模した本格的な舞台を体育館に設営します。子どもたちが日常使う場所に“異空間”が現れることで、歓声と驚きが広がります。舞台の存在は観客の感動を深めるだけでなく、演じる能楽師の士気も高め、より質の高い公演につながります。

【プロが本気で創る舞台 — 「出演者は演技に、スタッフは舞台に専念」】

“能楽師×舞台スタッフ＝最高の公演”

本事業では、能楽師は演技に集中し、舞台設営は熟練スタッフが担当します。それぞれがプロとして力を尽くすことで、どの学校でも最高レベルの能楽公演を実現します。

【展示・体験ブース — 「見て、触れて、もっと好きになる」】

“能面や装束を間近で！ワークショップに出られなくても楽しめる”

公演の前後には、装束・能面の展示・体験ブースを設けます。ワークショップに参加できなかった児童・生徒や地域の方々にも体験の場を広げます。衣桁(装束)、面台(能面)、頭台(赤頭・黒頭)はすべて影向舎特製で、より見やすく工夫。能楽を“観る”だけでなく“触れる”ことで、記憶に残る体験へつなげます。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫	【学校との連絡調整について】
	【ワークショップ時に入念な打ち合わせ】 学校さんが比較的に感じられる本公演での舞台設営について、基本は全て当方で行うことを踏まえて、協力をお願いしたい件（搬入車スペース、楽屋スペースの確保など）を、スタッフが舞台写真をお見せしながら、直接担当の先生と打ち合わせを行います。
	【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】
	【日々のワークショップ・本公演を、着実に大切に】 ※毎回は新しい舞台！ 平成30年度以降は、年度ごとの企画見直しに加え、各ワークショップ・本公演の前後に必ず出演者・スタッフ全員で意見交換を行っています。 「運びの体験は、袴を少し上げ足袋が見えた方が良い」 「次の能楽クイズは、この所作を取り入れると分かりやすく楽しいのでは」 「今日は人数が少ないので、先生方にも体験してもらおうと子どもが喜ぶだろう」 「囃子方のお調べのタイミングを少し遅らせると、雰囲気がいよゝむ」 「千秋楽の謡出しは能楽堂公演と変えて、このタイミングが良いだろう」 「作り物を演能前に舞台へ出して説明すると、『黒塚』の理解が深まる」 「分かりやすく前場を観てもらうには、初同の一部を省略しよう」 「千秋楽の謡は、冒頭を能楽師が謡い、以降は子どもたちだけに謡わせてはどうか」 こうした細かい改善を毎回積み重ね、学校ごとの人数・雰囲気に応じて柔軟に方向修正していきます。小学校と中学校で同じ進行を行うのは難しいため、内容や順番を画一化せず、各校に最も適した演出を心がけています。 【必ず全員が体験】 ※代表の先生や友達が体験しているのを“見るだけ”では興味はわからない！ 平成30年度に事業が採択され、同年5月にワークショップを開始するにあたり、当初は「生徒数が500名を超える学校では能面・装束の全員体験は難しいのではないか」という意見がありました。そこで宗家・宝生和英氏に相談したところ、「全員が体験しないのであれば、能面と装束の貸出はできません。他の子が体験しているのを体育座りで見ていただけでは、その子にとって能楽への興味は何もわきません。」というお答えをいただきました。この言葉を受け、能楽師・スタッフ一同が“全員体験”の重要性を再認識。毎年度のワークショップでは、学校の先生方の協力を得ながら、すべての生徒が「能面を掛け、装束を羽織る体験」を実施しました。（令和2～4年度はコロナウイルス感染防止のため、能面・装束体験は中止し、杵杵輪体験および代表の先生による着付け体験を行いました。） こうした日々の改善と「全員体験」へのこだわりの積み重ねが、子どもたち一人ひとりの能楽への関心と理解を深め、将来につながる豊かな文化体験となっています。
	【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】
	【公演後の動画配信（本事業内容の集約）】 本公演の終了が事業のゴールではありません。真の価値は、児童・生徒さんが体験や感想を友人やご家族と共有することにあります。 「能面を顔に当てると見づらかったよ」「大きな声で千秋楽を謡ったよ」「迫力があったよ」といった声を家庭で話していただくことはもちろん、さらに当日の様子を映像で振り返ることで、臨場感のある記録として子供たちの豊かな発想や感動をより深く知っていただけます。 能楽を通じて新しい家族間コミュニケーションが生まれるよう、工夫を凝らしています。
	【ワークショップ・本公演後も活用できる教材の配布】 ワークショップで学んだ謡の詞章や、演目「黒塚」の漫画あらすじ、みんなで楽しめる能面付録、さらには謡の復習や公演ダイジェスト動画へのアクセスURLなどを掲載した教材を、児童・生徒さん全員にお渡しします。 この教材は児童・生徒さんだけでなく、ご家族でも楽しめる要素を網羅しており、家庭での学びや鑑賞の広がりをサポートします。

リンク先

No.1

【公演団体名

公益社団法人 宝生会

】

別添①



多士済々の能楽師



学校公演に精通した演出



能楽堂では体感できない至近距離



宝生能楽堂を撮影した動画をワークショップで紹介

700年の伝統を現代に継承する能楽界のトップランナー

宝生会

影向舎

全国一の舞台力と制作力を有する学校公演の中核



体育館に設営される本格的な能舞台



細部をライブで投影 理解を深める現代語字幕



能『黒塚』あらすじオリジナルマンガ（鑑賞人数配布）



せ、エーんしうらくはたみをうなで
家庭でもお稽古ができる動画をサイトにアップ

項目内容

別添②

1 はじめまして能“楽”

能楽は、能・狂言を総称する言葉。みんなで“楽”しみながら、能楽の世界へレッツゴー！

2 能って？狂言って？

まずは能と狂言の特色・違いを
代表的な所作で紹介。



表情変えない／表情変える

能

狂言

声を出さない／声を出す



お稽古の前には
きちんとお挨拶



ステップ1：所作



ステップ2：面をかける



面をかけると、
視野の狭さにびっくり！



角度によって
表情も変化！



4 能楽しぐさクイズ！～何をしている？～

能楽では、演じる人のしぐさが重要なキーポイント！分かりやすいから当ててみてね！

5 能楽の成り立ち～能楽歴史絵巻～



現代では、能楽専門の劇場“能楽堂”
造られるまでになりました。

6 バーチャル能楽堂体験 Ⅲ

能楽堂ってどんなところ？オリジナルの
バーチャル体験！

役者の目線



舞台の裏側

7 能楽体験ひろば



みんなで体験！



装束

8 本公演にむけて～能「黒塚」と謡～

本公演で鑑賞する能「黒塚」のあらすじ紹介



昔むかしの、少し悲しいお話です…

項目内容

はじめまして 能"楽"

別添③

本公演では能「黒塚」にスポットをあてながら、より深くはじめての能楽に親しんでいただきます



狂言

『盆山』



能「黒塚」のおばあさんには少し悲しい過去がありました。舞台にちりばめられた**ヒント**と一緒に紐解いていきましょう。

能楽に必要な不可欠な音楽についてもご紹介!

ヒント!

舞台上に出てくるいくつかの道具。シンプルにみえますが、ちゃんとそれぞれ意味があります



『黒塚』のみどころ解説

休憩時には...

きわって体感



みて発見!

ヒント!

ワークショップでお稽古した“千秋楽”、覚えていますか? どんな時に謡うものなのかもヒントです



『黒塚』



能

“鬼”に聞いてみよう (アフタートーク)



アフタートーク



